

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 28日から30日にかけて、低気圧がサハリン付近に停滞し、西高東低の冬型の気圧配置が続く。
- 12月1日は、低気圧が千島近海へ進む一方、華中付近を高気圧が移動して西日本付近に張り出す。
- 2日は、西高東低の冬型の気圧配置が緩み、弱い気圧の谷が日本付近に進む。

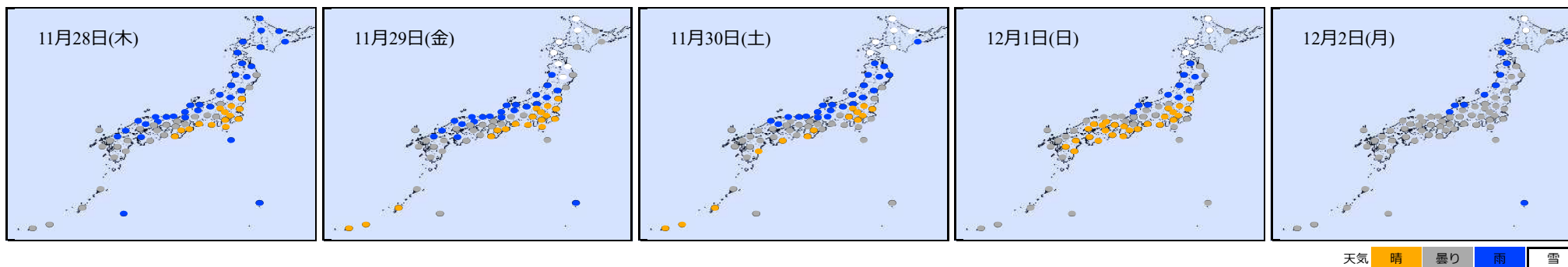
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 28日から29日にかけて、低気圧や冬型の気圧配置の影響で、北日本日本海側と東日本日本海側では荒れた天気となり、冬型の気圧配置の強まりの程度等によっては、大荒れとなるおそれがある。
- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

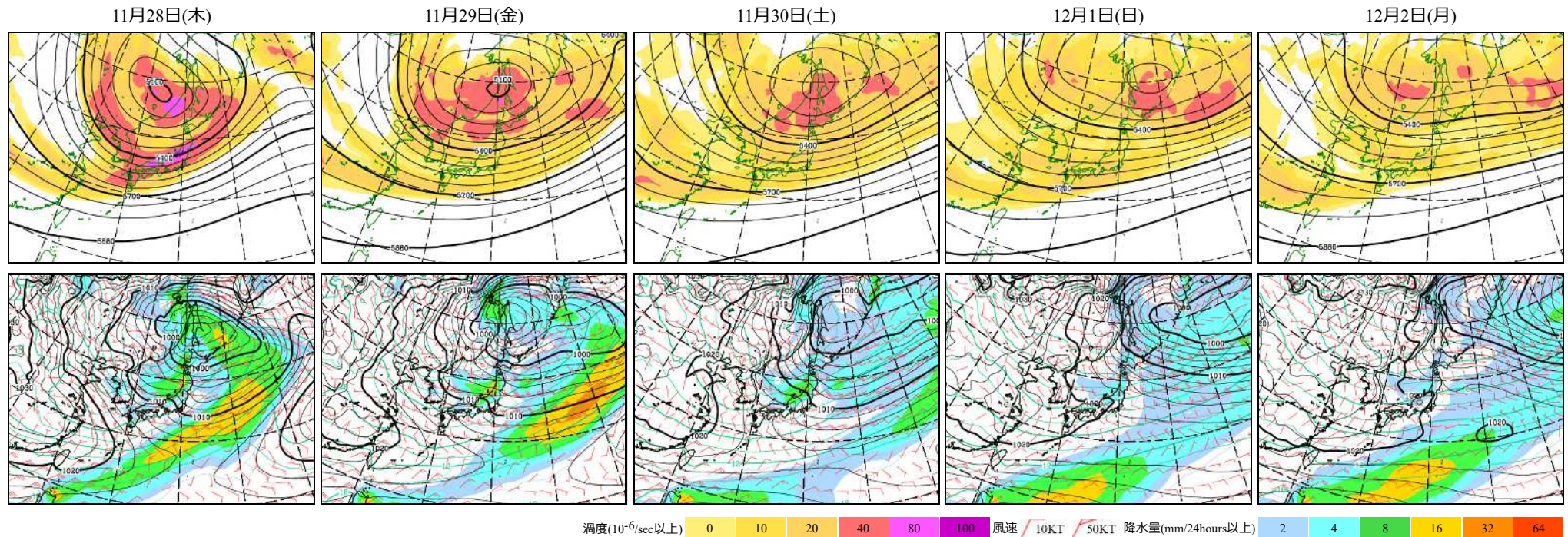
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

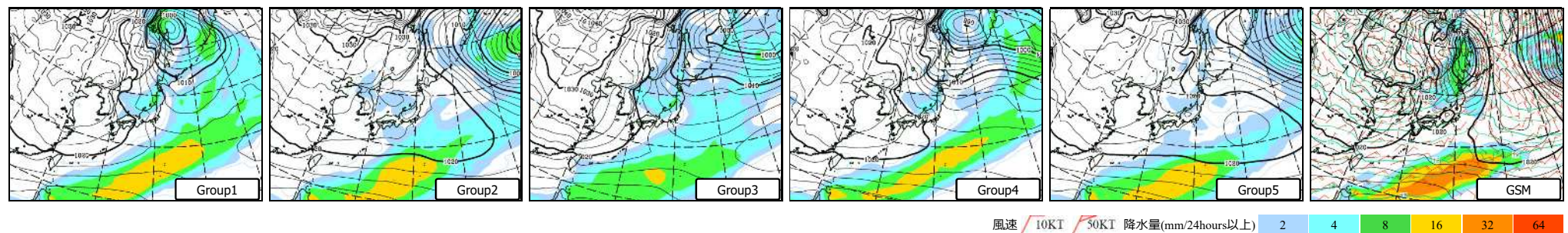


- 北日本、東日本日本海側、西日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側は、晴れや曇りの日が多いが雨の降る所もある。
- 西日本太平洋側と沖縄・奄美は、曇りや晴れの日が多いが雨の降る所もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月2日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、28日から29日にかけてサハリン付近に停滞する低気圧の中心付近の気圧は高くなったが、日本海の気圧の谷は明瞭となった。
- スプレッドは、期間の中頃から大きくなるが、降水確率ガイダンスは昨日との変化は小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。